

高校生のシビックプライドの醸成要因と将来の定住意識に与える影響

- 富山県高岡市に居住する高校生を対象として -

Effects on Future Attitudes Toward Settling Down and Factors Fostering Civic Pride in High School Students

- Focusing on High School Students Living in Takaoka City, Toyama Prefecture -

森 豪大*・藪谷 祐介**・宋 俊煥***

Godai Mori*, Yusuke Yabutani**, Junhwan Song***

In this study, a questionnaire survey was conducted among high school students living in Takaoka city to identify a source of civic pride that foster civic pride and increase their attitudes of settling down in the future. The source of civic pride consisted of four factors: "local environment," "culture and industry," "food and nature," and "history," and presented four components of civic pride: "participation," "identity," "attachment," and "desire to continue". The results of the covariance structure analysis revealed that future settlement awareness among high school students is formed by "attachment", which is fostered by sources of "local environment" and "culture and history". It was inferred that green spaces and parks that are accessible to them, communication at festivals, and local education that exposes them to traditional culture and industry in elementary and junior high schools will contribute to their attitudes of future settlement.

Keywords: Place Attachment, Regional Revitalization, Migration, U-turn, Local Education

地域愛着, 地方創生, 移住, Uターン, 地域教育

1. はじめに

1-1. 研究の背景と目的

地方に居住する高校生は、進学や就職先の選択肢の少なさを理由に、高校卒業を機に地域外へ転出することが多い。高校卒業後、一定期間がたってから地元に戻り地域の担い手となることが期待されるが、Uターンする若者が少ないことが現状である。このようなUターンの議論においては、近年シビックプライドの概念が注目されている。シビックプライドは、都市に対する市民の誇りと定義され、自分自身が関わって地域をよくしていこうという、当事者意識に基づく自負心という意味を含んでいる¹⁾。また、シビックプライドは地域参画、地域アイデンティティ、忠誠的愛郷心、地域愛着の4つで構成されている²⁾。

各自治体のシティプロモーション施策³⁾において、定住・Uターン人口の増加のためにシビックプライドの醸成が求められている。そのため、地域外へ転出する前の高校生のシビックプライドをいかに醸成するかが課題の一つとなりうる。シビックプライドの醸成要因として、伊藤²⁾は主に成人を対象に行ったアンケート調査によって²⁾、都市環境、食・自然、文化・産業、交通がシビックプライドの源泉(以下、源泉)となることを明らかにしており、有形・無形問わず様々なものが源泉となりうると思われる。

しかし、そうした源泉との接触経験や行動範囲が異なる高校生においても同様の結果が得られるかは定かではない。また、藪谷ら³⁾は地域愛着が、高校生のUターン意識に影響を与えることを指摘しているが、どのような源泉がどのようにシビックプライドを醸成し、将来の定住意識に影響を与えるかという一連の流れは明らかにされていない。

以上の背景から本研究では、高校生が地域の誇りに思う源泉を整理し、その源泉がシビックプライドにどのように

影響しているか分析することでシビックプライドの醸成要因を明らかにする。さらに醸成されたシビックプライドが将来の定住意識に与える影響を分析することで、どのような源泉がシビックプライドを醸成し、将来の定住意識を高めるかという一連の流れを明らかにすることを目的とする。

1-2. 研究の対象

本研究は、富山県高岡市を調査対象地域とした(図1)。高岡市の、人口は168,956人⁴⁾で、人口規模は県内で2番目(15市町村中)である。1985年の188,006人をピークに人口減少が進んでいる⁵⁾。市内には普通科や専門科を設置している高校が合わせて11校あり、富山県内では富山市に次ぐ数の高校が立地している。高岡市では、「ものづくり・デザイン科」と呼ばれる全国で唯一、地域の伝統工芸や産業を生かした特徴的な教育を市内の小中学生に行っている⁶⁾。

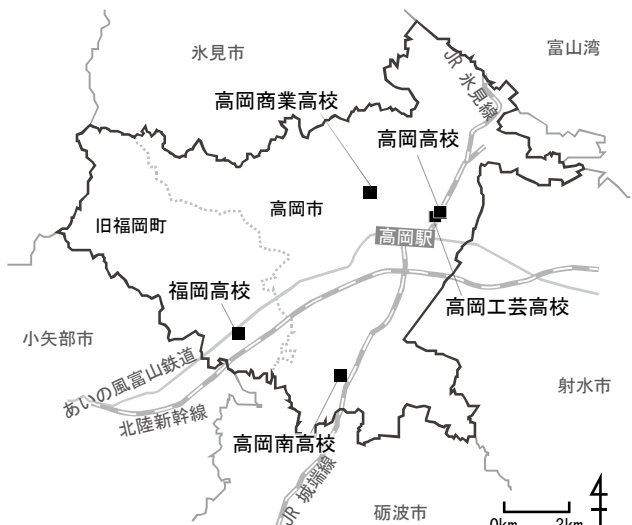


図1 高岡市の地図

* 学生会員 富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科 (University of Toyama)

** 正会員 富山大学学術研究部芸術文化学系 (University of Toyama)

***正会員 山口大学大学院創成科学研究科 (Yamaguchi University)

交通面においては、東京や金沢を結ぶ北陸新幹線や、富山市や金沢市との地域間交通を担うあいの風とやま鉄道、市内の地域交通を担う路面電車である万葉線が整備されている。高岡市は、多くの魚が水揚げされることから天然のいけすとも呼ばれる富山湾に面している。市内の西側は山間地域で二上山とこれに連なる西山丘陵があり、東側の平野部は庄川・小矢部川によって形成された扇状地が広がっている⁵⁾。また北東部には国定公園雨晴海岸があり、富山湾と標高 3,000m 級の立山連峰を望める景勝地として多くの観光客が訪れる。

高岡市の歴史は古く、1906 年に加賀家二代藩主前田利家が高岡城を築き、城下町が開かれた。また、伝統的な街並みが残る金屋町は、前田利家が鋳物師を招き土地を与えて鋳物づくりを行わせた高岡鋳物発祥の地である⁷⁾。

以上より、高岡市は普通科や専門科がある高校を多く有し、様々な学習環境で学ぶ高校生を対象に調査が可能であること、小中学校において特徴的な地域教育を実施していること、都市環境、食、自然、文化、産業、交通などの多様な源泉との接触機会を有することから、対象地域とした。

1-3. 研究の方法と構成

まず、高校生の源泉を抽出するために、高岡市内の県立高校 2 校を対象にプレアンケート調査を行った (2 章)。次に、I. 属性、II. 源泉を誇りに思う度合い、III. シビックプライド尺度、IV. 将来の定住意識について高岡市内の県立高校 5 校を対象に、本アンケート調査を実施した。I・II・III・IV の単純集計を行うことで、回答の傾向と特徴を把握し (3 章)、II と III の結果を用いて、それぞれ因子分析を行い、源泉及びシビックプライドの構成要素を明らかにした (4 章)。最後に、上記の源泉及びシビックプライドの構成要素と将来の定住意識を基に共分散構造分析を行い、源泉がシビックプライドに与える影響と、醸成されたシビックプライドが将来の定住意識に与える影響の一連の流れを明らかにし (5 章)、考察を行った (6 章)。具体的な調査方法については各章で述べる。

1-4. 研究の位置づけ

シビックプライドに関する研究として、伊藤⁸⁾はシビックプライド尺度を体系的にまとめ、アンケート調査と統計分析によって、市民の都市環境への評価がシビックプライドの醸成にどう影響を及ぼすかを明らかにした。また、伊藤²⁾は、富山市において具体的な都市環境を含めた様々な源泉とシビックプライドの構成要素との関係性を明らかにした。なお、本研究における源泉とシビックプライドの分析方法は伊藤²⁾のものを採用した。日高ら⁹⁾は、看護学の視点から中山間地域の住民において、シビックプライドが地域活動への参加意欲に影響していることを明らかにした。また、井形ら¹⁰⁾は、小中学生への地域教育がシビックプライドの醸成につながることを明らかにした。さらに、愛着の規定因に関する研究として、鈴木ら¹¹⁾は、自然と人々における様々な関わりの総体である風土が地域愛着を醸成することを明らかにし、引地ら¹²⁾は居住年数よりも地域の人

の集団に対する肯定的な印象が愛着を向上することを明らかにした。

高校生の定住意識に関する研究として、西村ら¹³⁾は、高校生の都市への好きの度合いが定住意識に影響があることを示唆した。また、青木ら¹⁴⁾は、自然環境の整備が高校生の将来の定住意識を高めることを明らかにした。

以上のように、主に成人を対象にシビックプライドに影響を与える源泉を明らかにした研究や、地域愛着の規定因に関する研究、高校生の地域愛着と定住意識との関係性を明らかにした研究は見られるが、U ターン施策を講じる上で重要なターゲットとなる高校生に着目し、シビックプライドと将来の定住意識の関係を、シビックプライドの醸成要因を含めて総合的に分析した研究は見られない。この点において本研究は新規性を有すると判断した。

2. シビックプライドの源泉

2-1. プレアンケートの調査方法

本アンケート調査の前段階として、高岡市におけるシビックプライドの代表的な源泉を抽出するためにプレアンケート調査を実施した (表 1)。プレアンケート調査は、高岡高校、福岡高校の 2 校に通学する高校生 (1、2 年生) を対象とした。高岡市は、2005 年に旧福岡町と合併⁵⁾しており、旧両市町から 1 校ずつ、計 2 校を調査対象とすることで、高岡市の広範囲に居住する高校生の様々な源泉を抽出できると考えた。

調査方法は、WEB アンケートと紙アンケートを併用した。調査項目は①属性 (性別・高校名など)、②将来の定住意識³⁾、③誇りに思うものである。③誇りに思うものは、源泉を把握するために尋ねるもので、既往研究²⁾を参照しながら高校生が分かりやすい言葉に変換し、建築物、文化施設、公園・広場等のオープンスペース、場所・地区、交通機関、文化芸術、イベントや祭り、産業、スポーツ、自然、食、(特)産物、歴史遺産、有名人、その他を質問の要素として設定した。各要素について、「あなたが誇りに思う (居住している市名) の (各要素名) を教えてください。(複数回答可)」と尋ね自由記述で回答を求めた。配布数は

840 部で、回答数は WEB での回答が 299 件、紙での回答が 43 件、合わせて 342 件 (回答率 40.7%) であった。そのうち、本研究の対象地域である高岡市に居住する高校生の有効回答は 204 件 (有効回答率 24.3%) であった。

2-2. 源泉の単純集計結果

イベント・祭りの「御車山祭り」(110 件 53.9%) が最も

表 1 プレアンケート調査の概要

調査期間	2021 年 9 月 15 日から 2021 年 9 月 24 日
調査対象	高岡市内の高校 2 校 (高岡高校、福岡高校に通学する高校 1、2 年生)
実施方法	WEB と紙を併用して実施した。WEB アンケートは回答 QR コードを印刷した調査票を配布した。
配布数 回答数	配布数：840 部 回答数：342 件 (回答率：40.7%) (WEB が 299 件、紙が 43 件) 高岡市に居住する高校生の有効回答：204 件 (有効回答率：24.3%)
調査項目	①属性 (性別・高校名など) ②将来の定住意識 ③誇りに思うもの

多く、次いで、公園・広場等のオープンスペースの「高岡古城公園」(107 件 52.5%)、交通機関の「万葉線」(69 件 33.8%)、建築物の「瑞龍寺」(66 件 32.4%)と続く(表2)。

「御車山祭り」と「高岡古城公園」は回答者の半数以上が誇りに思うことが分かった。「御車山祭り」は、国の重要有形・無形民俗文化財の両方の指定を受けており、そうした事例は国内に5つしかない。また、「高岡御車山祭の御車山行事」として、ユネスコ無形文化遺産にも登録されている⁷⁾。世界的にも高い価値が認められる伝統的な祭りであり、また高岡市居住の高校生にとっては小さい頃から馴染みのある祭りであると推察できる。「高岡古城公園」は、加賀家二代藩主前田利家が築いた高岡城の城跡を、明治以来公園として開放したもので、古くから広く高岡市民に受け入れられてきた公園であると推察できる⁷⁾。

2-3. 源泉の抽出

プレアンケート調査で得られた回答結果から、表2の通り代表的な源泉を抽出した。まず、各要素で最も回答が多かった11源泉(「瑞龍寺」と「高岡銅器」は複数の要素で最も回答が多かった)を抽出した。次に、回答者数の約1割の回答があった7源泉を抽出し、計18源泉を今回の本アンケート調査で用いることとした。「七夕祭り」、「高岡七夕祭り」、「戸出七夕祭り」は異なる祭りではあるものの、これらは高岡市内の各地域における七夕に関する祭りであり、源泉を把握する上では区別する必要はないと判断し、「高岡・戸出七夕まつり」として1つの源泉に統合した。

3. 高岡市のシビックプライドの現状

3-1. 調査方法

次に、各源泉を誇りに思う度合い、シビックプライド尺度、将来の定住意識を問うため、本アンケート調査を行った(表3)。調査対象は高岡市内にある高岡高校、高岡南高校、福岡高校、高岡工芸高校、高岡商業高校の5校に通学する高校生(1,2年生)とした。主な調査項目は、I.属性(性別、高校名など)、II.源泉を誇りに思う度合い、III.シビックプライド尺度、IV.将来の定住意識である。ただし、IIとIIIは高岡市に居住する高校生にのみ尋ねた。WEBアンケートの回答QRコードを印刷した調査票2096部を配布し1180件(回答率56.3%)の回答を得た。そのうち高岡市に居住する高校生の有効回答は564件(有効回答率26.9%)であった。

II.源泉を誇りに思う度合いに関しては、プレアンケート調査で抽出した代表的な源泉(表2)を用い、「以下の要素それぞれについて、高岡市民として誇りに思う度合いを教えてください。ただし、要素を知らない場合は、「知らない」を選択してください。」と問い、6段階(誇りに思う・やや誇りに思う・どちらとも言えない・あまり誇りに思わない・誇りに思わない・知らない)で回答を得た。III.シビックプライド尺度は4指標、20項目で構成される伊藤²⁾が開発したものをを用いた(表5)。各項目について、5件法(あてはまる・ややあてはまる・どちらとも言えない・あまり

あてはまらない・あてはまらない)で回答を求めた。

また、分析の精度を向上させるためにデータクリーニングを行った。データクリーニングは、a.アンケート回答時間が2分30秒以下のもの、b.全ての源泉を知らないで回答したものの、c.シビックプライド尺度の設問に対して全て同じ回答をしているもののいずれかに当てはまる回答を削除した。その結果、564件のうち497件(高岡市に居住する高校生の回答の88.1%)を分析対象とした。

3-2. 本アンケート調査の単純集計の結果

本アンケート調査の結果を基に単純集計を行い、回答者のシビックプライドの傾向と特徴を把握する。単純集計の結果を表4・5と図2に示した。単純集計に利用したデータは、クリーニング後のデータである(497件)。

源泉を誇りに思う度合いの平均値が最も高かったのは、藤子・F・不二雄(有名人4.55)である。藤子・F・不二雄は高岡市で生まれ育った漫画家で、世界で広く知られている

表2 源泉の抽出結果

要素	抽出した代表的な源泉	抽出しなかった源泉
建築物	瑞龍寺(66)*、高岡大仏(51)*	イオンモール高岡(16)、勝興寺(7)、金屋町(5)
文化施設	高岡御車山会館(27)、瑞龍寺(19)*	高岡大仏(10)、Uホール(9)、万葉資料館(8)、高岡文化ホール(8)
公園・広場等のオープンスペース	高岡古城公園(107)*、高岡おとぎの森公園(43)	スポーツコア(6)
場所・地区	金屋町(24)	イオンモール高岡(12)、雨晴海岸(8)、古城公園(8)、山町筋(6)、福岡町(5)
交通機関	万葉線(69)、北陸新幹線(22)	あいの風とやま鉄道(16)、ドラえもんトラム(5)
文化芸術	高岡銅器(31)*	鎗物(11)、高岡漆器(7)、万葉集(7)、ドラえもん(7)、高岡大仏(6)、錫製品(6)
イベントや祭り	御車山祭り(110)、高岡・戸出七夕まつり(計36) - 七夕祭り(19) - 高岡七夕祭り(11) - 戸出七夕祭り(6)	つくりもん祭り(17)、伏木曳山祭(けんか山)(12)、獅子舞(10)、御印祭(5)
産業	高岡銅器(42)*、鎗物(29)	錫(13)、アルミ産業(10)
スポーツ	バドミントン(22)	バスケットボール(18)、レスリング(9)、野球(8)、サッカー(5)
自然	雨晴海岸(25)、高岡古城公園(20)*、二上山(19)	田園風景(13)、山(12)、海(8)、川(6)、水(5)、桜(5)
食	魚(16)	鱈寿司(12)、米(10)、グリーンラーメン(7)、コロッケ(7)、ブラックラーメン(6)、国吉りんご(6)、昆布(5)、海産物(5)、寿司(5)
(特)産物	高岡銅器(14)*	鱈寿司(8)、錫製品(8)、昆布(7)、鎗物(7)、魚(7)、ホタルイカ(6)、米(5)
歴史遺産	瑞龍寺(64)*、高岡大仏(30)*	高岡古城公園(10)、金屋町(7)、勝興寺(5)、御車山(5)
有名人	藤子・F・不二雄(39)、豊板絵莉(22)	柴田理恵(13)、はじめしゃちょー(9)、八村塁(6)、モーリー・ロバートソン(5)

Note. 括弧内は回答数である。なお、回答数が5件以下のものは記載しない。また、※を付した源泉は、同じものであるが、本研究では要素ごとに源泉を抽出しており、要素を跨ぐ統合を行っていないため、複数の記載がある。

表3 本アンケート調査の概要

調査期間	2021年10月11日～2021年11月12日
調査対象	高岡市内の高校5校(高岡高校、高岡南高校、福岡高校、高岡工芸高校、高岡商業高校)に通学する高校1,2年生)
実施方法	WEBアンケート
配布数 回収数	配布数: 2096部 回収数: 1180件(回収率: 56.3%) 高岡市に在住する高校生の有効回答: 564件(有効回答率: 26.9%)
調査項目	I. 属性(性別、高校名など) II. 源泉を誇りに思う度合い III. シビックプライド尺度 IV. 将来の定住意識

ドラえもんなどの数多くの名作生み出したことから、誇りに思う度合いが高く現れたと考えられる。次に、「雨晴海岸」（自然 4.28）、「魚」（食 4.23）、「高岡御車山祭」（イベントや祭り 4.23）と続いた（表4）。

シビックプライド尺度の平均値は、「高岡市に自分の居場所はない」が 4.30 で最も高く、「高岡市は住みやすいと思う」が 4.28 と続いた。全体的に地域愛着の指標に関する質問項目の平均値が高い傾向にあることが分かる。既往研究²⁾で得られた富山市のシビックプライド尺度の平均値と比較し、差が大きい項目を取り上げると、「高岡市（富山市）の雰囲気や土地柄が気に入っている」（±0.41）、「高岡市（富山市）に自分の居場所はない（逆転項目）」（±0.47）と「高岡市（富山市）は自分にとって特別な場所である」（±0.43）は高岡市の方が高く、「友人や家族に高岡市（富山市）の商品や製品を使うよう勧める」（±0.64）と「高岡市（富山市）にずっと住み続けたい」（±0.41）は富山市の方が高い結果となった⁴⁾（表5）。

将来の定住意識は、「住みたい」、「どちらかと言えば住みたい」の回答を合わせた肯定的な意見の割合は 16.9%と低く、一方、「住みたくない」、「どちらかと言えば住みたくない」と回答した割合が半数（54.9%）を占めており、高岡市は将来の定住意識が高い高校生の割合が少ない傾向にあることが分かった（図2）。

4. 源泉及びシビックプライドの構成要素

4-1. 源泉の因子分析

抽出した 18 の源泉に対する誇りに思う度合いの回答結果を基に因子分析を行い、源泉の因子を明らかにする。源泉を「知らない」という回答は、誇りに思う度合いの他の

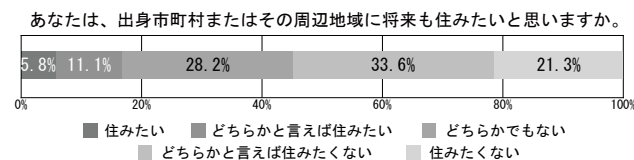


図2 将来の定住意識

表4 源泉を誇りに思う度合いの平均値と認知度

源泉名	平均値	認知度
藤子・F・不二雄（有名人）	4.55	98.8%
雨晴海岸（自然）	4.28	96.6%
魚（食）	4.23	98.6%
高岡御車山祭（イベントや祭り）	4.23	97.2%
北陸新幹線（交通機関）	4.16	99.2%
高岡大仏（建築物、歴史遺産）	4.11	99.4%
高岡銅器（文化芸術、産業、（特）産物）	4.12	97.0%
瑞龍寺（文化施設、歴史遺産）	4.08	97.2%
鋳物（産業）	4.04	94.4%
高岡古城公園（公園・広場等のオープンスペース、自然）	3.98	99.2%
登坂絵莉（有名人）	3.98	88.9%
金屋町（場所・地区）	3.96	91.3%
高岡・戸出七夕まつり（イベントや祭り）	3.89	97.4%
高岡おとぎの森公園（公園・広場等のオープンスペース）	3.78	98.4%
万葉線（交通機関）	3.76	98.8%
高岡御車山会館（文化施設）	3.60	95.2%
バドミントン（スポーツ）	3.60	85.1%
二上山（自然）	3.53	94.6%

Note. 括弧内は源泉の要素である。源泉の平均値の算出には、源泉を誇りに思う度合いの回答を用いた。誇りに思うを5、やや誇りに思うを4、どちらとも言えないを3、あまり誇りに思わないを2、誇りに思わないを1と変換して各源泉において平均値を算出した。なお、知らないと回答したものは平均値の算出には利用しない。

回答と同じ尺度で点数化することは適切でないため、源泉を因子分析する際には、「知らない」の回答は欠損値として扱い、リストワイズ処理（欠損が1つでもある回答を削除する、計116件）をして欠損がない状態で分析を行う。リストワイズ処理後の分析対象数は、381件であった。

このデータに対し、因子分析（最尤法・回転なし）を行った。18項目の相関行列の妥当性を確認するために、Kaiser-Meyer-Olkin（以下、KMO）の標本妥当性の測度の検討を行った結果、KMOが0.95となり、因子分析の適用は妥当だと判断した。分析の結果、「藤子・F・不二雄」の因子負荷量が0.30以下と低い値だったため削除し再度、因子分析（最尤法・回転なし）を行った。その結果を表6に示す。「藤子・F・不二雄」の因子負荷量が低かったのは、誇りに思う度合いの平均値が4.55と全ての源泉の中で最も高かったことを鑑みると、回答に偏りがあったためだと考える。

表5 シビックプライド尺度/平均値

指標	シビックプライド尺度		
	高岡市*	富山市*2	
地域愛着	1. 高岡市は住みやすいと思う	4.28	3.94
	2. 高岡市が好きだ	4.13	3.86
	3. 高岡市の雰囲気や土地柄が気に入っている	4.07	3.66
	4. 高岡市に自分の居場所はない（逆転項目※）	4.30	3.83
	5. 高岡市にずっと住み続けたい	3.29	3.70
	6. 高岡市は大切だと思う	4.03	3.85
	7. 高岡市にいつまでも変わって欲しくないものがある	3.63	3.67
	8. 高岡市になくなってしまおうと悲しいものがある	3.84	3.73
忠誠的愛郷心	9. 高岡市は、他のほとんどの地域より良い場所である	3.40	3.33
	10. 高岡市を批判している人がいたら、高岡市を擁護する	3.14	3.44
	11. 友人や家族に高岡市の商品や製品を使うよう勧める	2.63	3.27
	12. 高岡市のスポーツチームを積極的に応援する	2.98	2.89
地域参画	13. 地域社会の一員としての責任を真剣に考えている	2.94	3.00
	14. 自分のような人間が地域社会で重要な役割を果たすと思う	2.77	2.74
	15. 地域社会を良い場所にするための自分なりの貢献ができています	2.70	2.69
	16. 自分は地域社会に変化を起こすことができると思う	2.49	2.46
地域アイデンティティ	17. 人生の大部分が高岡市に結びついている	3.20	3.34
	18. 「高岡市の人」という言葉は、自分がどうい人物かをよく説明する言葉である	2.62	2.76
	19. 高岡市民であることは自分にとって重要なことである	3.10	2.97
	20. 高岡市は自分にとって特別な場所である	3.82	3.39

Note. 平均値の算出には、シビックプライド尺度の回答のあてはまり度合いを用いた。あてはまるを5、ややあてはまるを4、どちらとも言えないを3、あまりあてはまらないを2、あてはまらないを1と変換して、各尺度において平均値を算出した。なお、*1は高岡市のシビックプライド尺度の各項目の平均値である。*2は既往研究²⁾で得られた、富山市におけるシビックプライド尺度の平均値である。この場合、各項目の「高岡市」は「富山市」と置き換える必要がある。※逆転項目の回答は数値を逆転処理して平均値の算出を行っている。

表6 源泉の因子分析結果

源泉	因子1	因子2	因子3	因子4
	地域環境	文化・産業	食・自然	歴史
高岡おとぎの森公園	0.810	-0.026	-0.098	0.148
二上山	0.706	0.162	0.052	-0.164
高岡・戸出七夕まつり	0.703	0.011	0.103	0.050
バドミントン	0.687	-0.045	0.185	-0.271
高岡古城公園	0.676	0.064	0.010	0.261
登坂絵莉	0.501	0.046	0.234	0.020
万葉線	0.452	0.351	0.040	-0.018
北陸新幹線	0.448	0.078	0.194	0.051
高岡御車山会館	0.408	0.345	0.044	0.176
高岡銅器	-0.001	0.961	-0.053	0.000
鋳物	-0.026	0.789	0.149	-0.027
金屋町	0.339	0.464	0.049	0.051
高岡御車山祭	0.094	0.449	0.179	0.280
魚	0.012	0.016	0.818	-0.046
雨晴海岸	0.048	0.065	0.634	0.167
瑞龍寺	0.125	0.195	0.295	0.467
高岡大仏	0.285	0.159	0.198	0.424

第1因子は、「高岡おとぎの森公園」や「二上山」などの自然環境や地域コミュニティに関する因子負荷量が高かったため、「地域環境」と命名した。第2因子は、高岡銅器や鋳物などの伝統工芸や産業に関する因子負荷量が高かったため、「文化・産業」と命名した。第3因子は、「魚」と「雨晴海岸」で構成されているため、「食・自然」と命名した。第4因子は、「瑞龍寺」と「高岡大仏」といった歴史的建造物で構成されているため、「歴史」と命名した。

4-2. シビックプライド尺度の因子分析

次に、シビックプライド尺度の回答結果を基に因子分析を行い、シビックプライドの構成要素を明らかにする。分析対象は、高岡市に居住する高校生497件である（データクリーニング後のもの）。このデータに対し、因子分析（最尤法・回転なし）を行った。20項目の相関行列の妥当性を確認するために、KMOの標本妥当性の測度の検討を行った結果、0.93となり、因子分析の適用は妥当だと判断した。分析の結果、「高岡市に自分の居場所はない」・「高岡市を批判している人がいたら、高岡市を擁護する」・「高岡市のスポーツチームを積極的に応援する」の3つの項目は因子負荷量が0.30以下と低い値であったため削除し、再度、因子分析（最尤法・回転なし）を行った。その結果を表7に示す。因子分析の過程で削除した上記の3項目を除いて、既往研究²⁾の因子分析結果と比較すると、「友人や家族に高岡市の商品や製品を使うよう勧める」の項目以外は各因子が同様の項目で構成されていることが分かる。そのため、既往研究²⁾に倣って、第1因子を「参画」、第2因子を「愛着」、第3因子を「アイデンティティ」、第4因子を「持続願望」と命名した。

5. 源泉とシビックプライド及び将来の定住意識との関係

5-1. 分析の概要

源泉がシビックプライドの醸成に与える影響と、醸成されたシビックプライドが将来の定住意識に与える影響の一連の流れを分析するために、共分散構造分析を行う。分析に用いるデータは以下の通りである。

源泉について、4-1の因子分析では、116件のリストワイズ削除（データクリーニング後の高岡市に居住する高校生の回答の23.3%）を行ったデータを用いたが、源泉を1つでも「知らない」と回答したものを削除すると、認知度の高い回答に偏りが出てしまう可能性があるため、共分散構造分析では下位尺度得点を用いた。下位尺度得点は、各因子に対し因子負荷量が高い源泉群（表7の各因子の灰色部分）の誇りに思う度合いの平均値とした。下位尺度を観測変数に用いる回帰分析では、尺度の信頼性が低い時にパス係数にバイアスが発生することが指摘されている¹⁵⁾。そこで、各下位尺度得点の信頼性をクロンバックの α 係数で確認したところ、「地域環境」は0.83、「文化・産業」は0.83、「食・自然」は0.87、「歴史」は0.85と0.80以上であることから、信頼性が高いと判断した⁶⁾。なお、下位尺度得点を用いても源泉群すべてを「知らない」とした回答は欠損値

が発生するため、共分散構造分析では欠損の影響を補正した推定結果が得られる完全情報最尤推定法¹⁶⁾を用いる。

5-2. 源泉とシビックプライド及び将来の定住意識の関係

既往研究²⁾では、源泉の各因子がシビックプライドの各構成要素に影響し、シビックプライドの構成要素間の関係は「愛着」が「アイデンティティ」と「持続願望」を高め、「アイデンティティ」が「参画」を高めているとしている。また、既往研究³⁾では、「愛着」が将来の定住意識に影響があることを示唆している。そのため、源泉の各因子がシビックプライドの各構成要素に影響し、シビックプライドの構成要素から将来の定住意識に影響する仮説モデルを仮定した（図3）。以上の仮説を基に、パス係数が5%水準で有意となるよう探索的に推定を行い、図4のモデルを得た。図中にある数字は標準化されたパス係数で、因果関係の強さを意味し、誤差変数は省略した。また、パスの太さは有意水準を示す。モデルの適合度を表す指標は、RMSEA=0.084、GFI=0.848であった。本研究で得られたモデルはこの基準を満たさない値であったが⁶⁾、既往研究²⁾に倣い、全変数間で有意なパスを引けていることから、構成要素間の関係性を大筋捉えていると判断した。また、四角で囲われてい

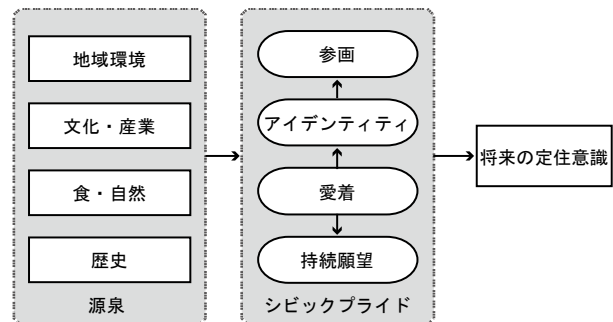


図3 仮説モデル

表7 シビックプライド尺度の因子分析結果

設問No.	項目	因子1	因子2	因子3	因子4
		参画	愛着	アイデンティティ	持続願望
16	自分は地域社会に変化を起こすことができると思う	0.878	-0.098	-0.026	0.036
14	自分のような人間が地域社会で重要な役割を果たすと思う	0.856	0.001	0.007	0.019
15	地域社会を良い場所にするための自分なりの貢献ができています	0.806	0.080	0.046	-0.068
13	地域社会の一員としての責任を真剣に考えている	0.579	0.137	0.079	0.040
11	友人や家族に高岡市の商品や製品を使うよう勧める	0.443	0.174	0.104	0.079
2	高岡市が好きだ	0.053	0.905	-0.051	-0.021
3	高岡市の雰囲気や土地柄が気に入っている	0.019	0.781	0.027	0.014
5	高岡市にずっと住み続けたい	-0.080	0.738	0.031	-0.013
6	高岡市は大切だと思う	0.016	0.442	0.121	0.296
1	高岡市は住みやすいと思う	0.013	0.397	0.252	0.098
9	高岡市は、他のほとんどの地域より良い場所である	0.158	0.396	0.136	0.208
19	高岡市市民であることは自分にとって重要なことである	-0.007	-0.002	0.890	-0.012
17	人生の大部分が高岡市に結びついている	0.022	-0.004	0.672	-0.016
18	「高岡市の人」という言葉は、自分がどういふ人物かをよく説明する言葉である	0.162	-0.063	0.626	0.012
20	高岡市は自分にとって特別な場所である	-0.016	0.216	0.465	0.229
8	高岡市になくなってしまおうと悲しいものがある	-0.032	-0.035	0.044	0.836
7	高岡市にいつまでも変わって欲しくないものがある	0.065	0.034	-0.052	0.785

るのが観測変数、楕円で囲われているのが潜在変数を表す。左段に並ぶのが源泉の因子、中央左段に並ぶのがシビックプライドの構成要素、中央右段に並ぶのがシビックプライド尺度、右段に並ぶのが将来の定住意識である。

以下、本項において括弧内はパス係数を示す。源泉とシビックプライドの構成要素の関係に着目すると、「地域環境」(0.632)と「文化・産業」(0.177)から「愛着」に、「地域環境」(0.261)から「参画」に向けた因果パスが確認された。また、「歴史」(0.194)から「アイデンティティ」に、「食・自然」(0.202)から「持続願望」に向けた因果パスが確認された。パス係数に着目すると、「地域環境」が「愛着」を高める因果関係が最も高い結果となった。

シビックプライドの構成要素間の関係については、「愛着」から「参画」(0.363)、「アイデンティティ」(0.563)、「持続願望」(0.604)のそれぞれに向けて因果パスが確認された。さらに、「愛着」から将来の定住意識への因果パスが確認された。「愛着」以外にシビックプライドの構成要素から将来の定住意識への影響を与える因果パスは見られなかった。

以上のことから、高岡市に居住する高校生においては、「地域環境」と「文化・産業」が「愛着」を高め、その結果として将来の定住意識が高まるという流れが確認できた。また、「愛着」が「参画」、「アイデンティティ」、「持続願望」を高めることが明らかとなった。

6. 総合考察

これまでの分析結果を総合的に考察する。単純集計の結果から、高岡市は将来の定住意識が高い高校生の割合が少ない傾向にあることが分かった。

また、共分散構造分析の結果から、高校生の将来の定住意識の形成には、シビックプライドの構成要素である地域

への「愛着」の醸成が重要であることが明らかとなった。

「愛着」以外のシビックプライドの構成要素から将来の定住意識へは有意な因果関係が見られなかったことから、将来の定住意識の向上には、「愛着」が基盤となることが示された。さらに、「愛着」がシビックプライドの他の構成要素である「参画」、「アイデンティティ」、「持続願望」を高めることから、シビックプライドの醸成においても愛着形成が基盤となると考えられる。以上より、定住意識の形成とシビックプライドの醸成において、愛着形成が重要であることが示唆された。

また、「愛着」には「地域環境」と「文化・産業」の源泉が影響していることが明らかになり、「地域環境」と「文化・産業」が、将来の定住意識を高めるための重要なシビックプライドの醸成要因であると考えられる。

「地域環境」は、「高岡おとぎの森公園」や「二上山」などの緑地環境と「高岡・戸出七夕祭り」などの地域コミュニティで構成されている。「高岡おとぎの森公園」は、四季や自然を身近に感じることができ、多くの大型遊具や体験施設を有する総合公園で¹⁷⁾、多くの高校生が子どもの頃に遊んだ経験があると考えられる。鈴木¹¹⁾らは、公園が多く存在する地域ほど、地域愛着が向上する機会が生まれることを指摘している。一方、一人当たりの公園面積は令和元年時点で、高岡市(9.4人/m²)は国(10.6人/m²)及び富山県(15.5人/m²)と比べ小さいことから¹⁸⁾、高校生が身近に利用できる公園・緑地環境を充実させることが、将来の定住意識を高めることに寄与すると考えられる。「高岡・戸出七夕祭り」は、子どものころから毎年のように訪れる祭りだと考えられる。引地ら¹⁹⁾は、祭りは住民間の密なコミュニケーションを必要とすることから、地域愛着の向上につながることを指摘しており、高校生が地域の祭りに関わる機会

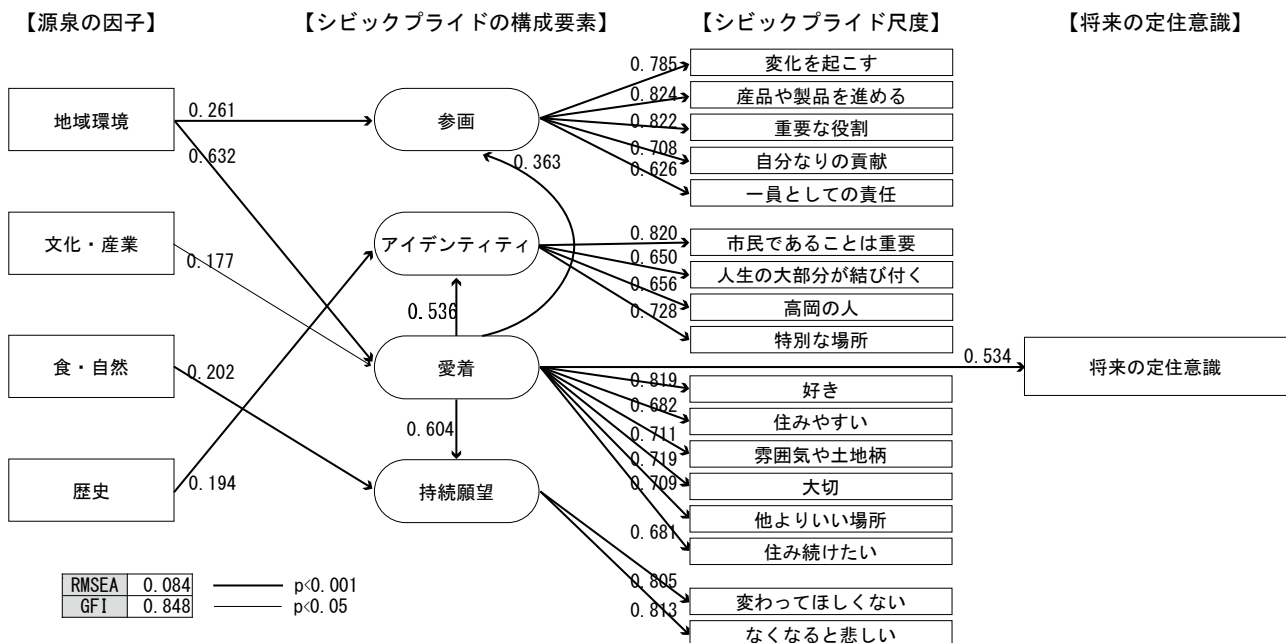


図4 共分散構造分析の結果

を増やしていくことが、将来の定住意識にも良い影響を与えると考えられる。

「文化・産業」の因子は高岡銅器や鋳物などで構成されている。1章で述べたとおり、高岡市では全国で唯一、地域の伝統工芸や産業を学ぶ授業を小中学生に行っており、こういった機会が、高校生になってからの将来の定住意識にも影響していると推察される。そのため、将来の定住意識を形成するためには、このような地域教育を更に強化・維持していくことが重要と考えられる。

富山市の成人を主に対象に行った伊藤²⁾の研究と源泉について比較すると、「地域環境」、「文化・産業」、「食・自然」は共通する因子であったものの、高岡市では「歴史」、富山市では「交通」の因子が抽出された点が異なる。富山市は1945年の富山大空襲により市街地の99.5%を焼失しているため²⁰⁾、歴史的な施設は残っておらず、「交通」の因子を構成するLRTなどの近現代に整備された都市交通インフラが多く源泉として挙げられている。それに対し、高岡市は、「高岡大仏」や「瑞龍寺」といった歴史的建造物が源泉として確認されたことから、地域の成り立ちや形成背景によってシビックプライドを醸成する源泉も異なることが明らかとなった。さらに、シビックプライド尺度の因子分析結果について既往研究²⁾と比較すると、1項目を除いて各因子が同様の項目で構成されることが明らかとなった。すなわち、シビックプライドの構成要素は、対象者の年齢や地理的特徴が異なる地域においても同様の特徴を持つ可能性が示された。ただし、今後、市民の属性や人口規模が異なる地域との比較が必要であると考えられる。

また、同様にシビックプライドと源泉の関係について比較すると、富山市では、「愛着」に最も影響がある源泉は「食・自然」であったが、高岡市ではその因果関係は見られなかった。「食・自然」では両市とも魚に関する源泉が挙げられており、誇りに思う度合いの平均値もそれぞれ高い。両市ともに、多くの魚が水揚げされる富山湾に面した同様の環境を有することから、これらの差異は地理的要因よりも、回答者の属性に起因することが大きいと推察される。すなわち、成人とは異なり高校生においては、食に関する源泉は「愛着」への影響が少ないことが推察され、高校生と成人では異なるシビックプライドの醸成要因を有する可能性が示唆された。

7. おわりに

本研究では、高岡市に居住する高校生を対象にアンケート調査を実施し、どのような源泉がシビックプライドを醸成し、将来の定住意識を高めるかという一連の流れを明らかにした。

まず、高岡市に居住する高校生が誇りに思う源泉から、代表的な18の源泉を抽出し、因子分析により、「地域環境」、「文化・産業」、「食・自然」、「歴史」の4つの因子を明らかにした。また、シビックプライド尺度を用いた因子分析により、高岡市に居住する高校生のシビックプライドの構

成要素は「参画」、「アイデンティティ」、「愛着」、「持続願望」の4つであることを提示した。

次に、源泉とシビックプライドの構成要素、将来の定住意識との関係を明らかにするために共分散構造分析を行った。その結果、高校生における将来の定住意識は、シビックプライドの構成要素の一つである「愛着」によって形成され、その「愛着」は「地域環境」と「文化・歴史」の源泉によって醸成されることが明らかになった。また、シビックプライドの「愛着」は、他の3つの構成要素を高めることから、シビックプライドの醸成には、地域への愛着形成が基盤となると考えられる。

さらに、シビックプライドの構成要素は地域の成り立ちや背景によって異なること、高校生と成人では異なるシビックプライドの醸成要因を有する可能性を指摘した。加えて、高校生においては、身近に利用できる公園・緑地環境や、祭でのコミュニケーション、小中学校において伝統文化や産業に触れる地域教育が、将来の定住意識に寄与することを推察した。

本研究は、地域愛着がある程度高く、将来の定住意識が高い高校生の割合が少ない傾向を持つ高岡市を対象としており、本研究成果はこうした地域における今後の定住意識を高めるための知見として意義があると考えられる。一方で、地域愛着や定住意識の傾向が異なる地域においても同様の結果が得られるかは定かでない。

以上の内容を踏まえて今後の課題としては、都市の成り立ち、人口規模、地域愛着や将来の定住意識の傾向が異なる他地域との比較分析等を行い、様々な源泉とシビックプライドの関係及び、シビックプライドが定住意識に与える影響を検証する必要がある。

謝辞

本研究の調査にあたり、高岡高校、高岡南高校、福岡高校、高岡工芸高校、高岡商業高校にご協力いただきました。心から感謝いたします。また、本研究は令和3年度とやま呉西圏域調査研究事業補助金とJSPS 科研費JP20K14907の助成を受けたものです。

【補注】

- (1) 例えば、三重県伊賀市21)や東京都羽村市22)のシティプロモーション指針において、シビックプライドの醸成が定住人口増加に寄与することが期待されている。
- (2) 伊藤の研究では、15歳以上の方にアンケート調査を実施し、最年少は16歳、最年長は86歳であったため主に成人を対象としたと判断した。
- (3) プレアンケート調査における将来の定住意識の設問は、本アンケート調査前に全体の傾向を把握することが目的であるため、本文では特に触れない。
- (4) 高岡市と富山市のシビックプライド尺度の差の要因については、都市の成り立ちや人口規模、回答者の属性など様々な事象が複合的に影響すると考えられ、本調査結果だけでは明らかにできないため、今後、複合的な調査を行うことが必要である。
- (5) α 係数の値について明確な定義はないが、参考文献23)によると、一般に0.8以上であれば信頼性が高いとされている。
- (6) 適合度は、一般的にRMSEAは0.05以下、GFIが0.9以上であれば適合すると判断される24)。

【参考文献】

- 1) 伊藤香織 (監修), 柴牟田伸子 (監修), シビックプライド研究会 (編集) (2015), シビックプライド2[国内編]: 都市と市民のかかわりをデザインする, 宣伝会議
- 2) 伊藤香織 (2019), シビックプライドの源泉としての都市環境及び諸要素 -富山市中心市街地と富山地域を事例として-, 都市計画論文集, Vol.54, No.3, pp.615-622
- 3) 藪谷祐介, 阿久井康平 (2021), 高校生の通学時における地域接触が愛着形成に与える影響 -富山県小矢部市内の高校に通学する高校生を対象として-, 都市計画論文集, Vol. 56, No.3, pp.772-779
- 4) 総務局統計局 (2021), 【総計】令和3年住民基本台帳人口・世帯数、令和2年人口動態(市区町村別), https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/daiyo/jinkou_jinkoudoutai-setaisuu.html, 最終閲覧 2022.4.26
- 5) 高岡市 (2018), 高岡市都市計画マスタープラン, https://www.city.takaoka.toyama.jp/toshi/sangyo/toshi/guideline/documents/sstoshimp_zentai.pdf, 最終閲覧 2022.4.26
- 6) 高岡市, 高岡市公式HP, ものづくり・デザイン科, <https://www.city.takaoka.toyama.jp/school/kosodate/gakko/monozukuri/index.html>, 最終閲覧 2022.4.26
- 7) 高岡市 (2011), 「高岡市歴史的風致維持向上計画」高岡市歴史まちづくり計画, https://www.city.takaoka.toyama.jp/toshi/sangyo/toshi/rekishi/machizukuri/documents/rekimachi_all.pdf, 最終閲覧 2022.4.26
- 8) 伊藤香織 (2017), 都市環境まわりのシビックプライドを高めるか -今治市を事例とした実証分析-, 都市計画論文集, Vol. 52, No.3, pp.1268-1275
- 9) 日高末希恵, 今井秀樹 (2021), 中山間地域に暮らす人々の Civic Pride に関連する要因 -地域の文化的価値観に着目した看護への示唆, 日本看護学会誌, Vol41, pp.806-814
- 10) 井形康太郎, 田中尚人 (2019), 地域学習における児童のシビックプライド形成に関する研究, 土木学会論文集, Vol75, No.5, I 181-I 189
- 11) 鈴木春菜, 藤井聡 (2008), 「地域風土」への移動途上接触が「愛着」に及ぼす影響に関する研究, 土木学会論文集 D, Vol.64, No.2, pp.179-189
- 12) 引地博之, 青木俊明 (2005), 地域に対する愛着形成の心理過程の検討, 景観・デザイン研究講演集, No.1, pp.232-235
- 13) 西村健, 南條隆彦 (2017), 若者から見た地域への愛郷心・愛着と帰巢性の関係 島田市の高校生アンケート調査等から見た地方創生の可能性, 公共コミュニケーション研究, 2 巻 1 号, pp.38-43
- 14) 青木秀幸, 鎌田元弘, 宮澤哲蔵 (1999), 中山間地域における高校生の生きがい指標と定住意向からみた生活環境評価 農村部における若者の生活実態と農村環境の志向に関する研究 その1, 日本建築学会計画系論文集, 第524号, pp.177-184
- 15) 狩野裕 (2002), 構造方程式モデリングは、因子分析、分散分析、パス解析のすべてにとって代わるのか?, 行動計量学, 第29巻, 第2号, pp.138-159
- 16) 豊田秀樹(2014), 共分散構造分析[R編]-構造方程式モデリング-, 東京図書株式会社
- 17) 公益社団法人とやま観光推進機構, 高岡おとぎの森公園, <https://www.info-toyama.com/attractions/21102>, 最終閲覧 2022.4.26
- 18) 高岡市, 高岡市公式HP, 公園整備状況, <https://www.city.takaoka.toyama.jp/midori/kurashi/kankyo/ryokuka/toshiko/en/oen.html>, 最終閲覧 2022.4.26
- 19) 引地博之, 青木俊明, 大淵憲一(2009), 地域に対する愛着の形成機構 -物理的環境と社会的環境の影響-, 土木学会論文集 D, Vol.65, No.2, pp.101-110
- 20) 富山市, 未来に語り継ぐ 富山大空襲の記憶, <https://www.city.toyama.toyama.jp/etc/kuushuu/>, 最終閲覧 2022.4.26
- 21) 伊賀市 (2018), 伊賀市シティプロモーション指針, <https://www.city.iga.lg.jp/cmsfiles/contents/0000004/4728/H30.3cp-shishin.pdf>, 最終閲覧 2022.4.26
- 22) 羽村市 (2022), 羽村市シティプロモーション基本方針, <https://www.city.hamura.tokyo.jp/cmsfiles/contents/0000009/9868/kaiteiban.pdf>, 最終閲覧日 2022.4.26
- 23) 尾崎幸鎌, 莊島宏二郎 (2014), パーソナリティ心理学のための統計学: 構造方程式モデリング, 誠信書房
- 24) 朝野熙彦, 鈴木督久, 小島隆矢(2005), 入門 共分散構造分析の実際, 講談社